

令和3年度 事業報告

各部署報告

グループホーム

○結果

お掃除タイムを設け、モップ掛けや自分の部屋の清掃のお声掛けで掃除が習慣的に出来てきた方もいる。お膳拭きや洗濯たたみ等出来ることは手伝いたいと生きがい、やりがいに繋がっている。

○反省

お掃除の習慣化は、元気な方は出来ていたが、手伝いを負担に思っている方や認知症や身体面の重症の方に関してのアプローチが出来なかった。職員の業務上のスキルアップに関して、全体的には意欲的であったが、一部、研修や会議、委員会活動に消極的な人もいた。

デイサービス

○結果

食堂から阿蘇の山々が見える庭で野菜や花を育て、楽しんでいただけるよう、生育状況を話題にした。車イスの方でも収穫に参加できる環境を作り、夏野菜カレーを調理して食べた。他の野菜もお昼やおやつ時に味わった。

部署での会議時には、認知症ケアの勉強や困難事例の検討を行い、ケアの統一を図り対応ができた。

○反省

稼働率 75%を目指して 70%まで来たが最終 61.4%止まりであった。休みがあった場合の振り替利用の提案等を全職員が発信できるようにしたい。

LAB みなみ阿蘇

○結果

農薬を不使用の野菜作りと、養鶏を主な作業として皆で取り組んだ。2021年9月からはみなみ阿蘇ビール株式会社と連携し、みなみ阿蘇ビールの梱包と発送を担うこととなり新たな挑戦を行った。

○反省

幅広くある作業内容に対し、十分な支援の構造化には至らなかった。野菜一品目毎に細かな手順があるため全支援員が理解できるよう見える化を行い、メンバーお一人お一人の挑戦したいことをもっと引き出し、ステップアップに繋げていきたい。

ケルン

○結果

学校へはケース会議等を通して繋がりをもっている。病院は特に精神科病院との連携として受診同行や相談員と情報共有を実施。児童については関連事業所の見学を実施した。

ケースを通して地域連携の一環として、多職種共同でのケース会議の実施ができた。主に福祉と教育そしてインフォーマルサービスの連携の場になっており、村内での地域連携としてもよい機会となっている。ケースを通して医療と教育と福祉の連携について経験できたことは今後にもつながる良い機会であった。

有料老人ホーム

○結果

様々な要因で内壁を充実したスペースとして活用できなかった。清掃は意識的に満遍なく行っていたが、個々の楽しみにつながる空間づくりは不十分であった。コスト削減に関しては、コロナ対策強化もあり、必要物品や換気が増えたため、削減には至らなかった。

○反省

コロナ禍というのが原因で出来なかったことも多々あるが、逆にコロナ禍だからこそ出来たことがもっとあったのではないかと感じる。その時々状況に合わせて臨機応変に計画を実行する必要があると感じた。

24時間介護看護サービスはな

○結果

研修を予定通りできた。コロナ禍でも出来る事、その時々に必要なかわり方を見極めながら、家族の方々との時間を柔軟に取ることが出来た。

○反省

研修は実施できたが、充実した内容には至らなかった事、利用者のニーズに対応するゆとりがなく、慌ただしくなってしまった事は次年度に向け改善と向上を目指していきたい課題である。

結の家

○結果

各々の「出来る事、やりたい事」を尊重し、食事準備を中心に職員と共に行う事ができ、気候に合わせて野菜の栽培や収穫、調理、鑑賞と幅広く楽しむことも出来た。コロナ禍で外出や地域との関わりが持てなかったが、日々の散歩などで利用者間の関わりを持つことができた。

○反省点

日々の生活をもっと充実させることが出来たのではないかと感じる。これからもコロナ禍における新しい生活様式が続くと思われるので、そこに対応した、おうち時間で充実した生活を送って頂く工夫を行っていく必要がある。

はなしのぶ

○結果

様々な利用者、家族のニーズに合わせたサービスの提供を行い、在宅生活支援から看取りまで行っている。季節を感じていただけるような掲示物作成やドライブなど、職員一人一人が意欲的に取り組み、ご参加いただいた。

○反省

地域への情報発信や利用者に関わりを持っていただけるような活動などを、行うことは現状難しかった。登録人数が増え、それぞれの利用者のニーズすべてにお答えすることが難しい時がある。家族や地域、主治医など、利用者に関わる全員で支えていけるそのパイプ役となっていきたい。

各委員会報告

研修委員会

○結果

コロナ禍であってもオンラインの zoom を活用し、充実した研修開催を目標に活動した。毎月定期的な開催ができ、zoom の扱いにおいても当初からすると、随分操作可能な方が増え、自宅からの参加も広がった。

○反省

新人研修を2回／年開催目標としていたが、会社全体の人員不足にて開催できず。

zoom 操作マニュアルを作成したものの、周知不足にて全体的な活用向上にはつなげられなかった。研修会当日、参加が難しい方用に ipad 内での視聴も試みたが、活用実態の把握には至っていない。

ヒヤリ・ハット対策委員会

○結果

今年度4回の委員会が開かれ、リスクマネジメントの勉強や外国人労働者の方にも読める様、報告書にふりがなを付けたたり、事故発生時のチェックシートを作成し、看護師や上長へ報告しやすくした。事例検討では、参考になる意見が多く有意義な会であった。新人研修や全体勉強会では、リスクマネジメントについて勉強し、伝えることができた。

○反省

リスクマネジメントについて、勉強会のみならず委員会職員全体で全職員へ伝えていく必要があると感じた。

地域活動委員会

○結果

コロナのせいで活動ができなかった。

○反省

部署間の移動ができないなかでも各部署で何か工夫し、レクリエーション、草取りなど、できた気がする。今年度は、月に1回は集まり話し合いの場を設けようと思う。

防災衛生委員会

○結果

新たに委員会を開設して1年目だったが、幅広く活動することができたと振り返る。火災に対する委員会活動においては各部署コンセントのチェックや漏電対策、労災に対しては全施設の屋内外を委員会メンバーでラウンドし、危険箇所のチェックと対策を行なった。また、電子カルテのトラブル対策や、iPad等のタブレット機器での書類管理等についてもサポートを行なった。また消防訓練とは別に大雨想定避難訓練を開催し、有意義な訓練内容となった。

○反省

様々な事案に対して取り組むことは出来たが、各部署が独立し継続してチェックする体制等が整っていなかった。ラウンドによって全施設の問題点や危険箇所を発見することは出来たが、すべての対策や処理は出来ていない。環境面における労災の予防には取り組むことが出来たが、時間外労働の把握等に関しては不十分な部分があった。

コンプライアンス部会

○結果

2021年度は各事業所の帳票類の確認・徹底を各部署長が担ったが、会社としての一斉点検には至らなかった。不備な部分に関しては早急に改善を行い意識向上に向け取り組んだ。コロナ対策で感染症マニュアルの作成を行い、感染予防を徹底することが出来た。熊本県リスクレベルに合わせ柔軟な対応を行い、蔓延防止に向けた取り組みをスタッフ全員が一丸となって取り組むことが出来た。

○反省

帳票類のコンプライアンスチェックを部署長が行うことが出来ているが、その最終チェックまでは出来ていない。コンプライアンス徹底に向け各関係者が互いに確認し合う体制づくりを再検討したい。

身体拘束防止委員会

○結果

身体拘束ゼロを実践できている。身体拘束防止検討委員会の場で、ケース検討をかさね各部署間の連携を図った。不適切な介護の芽をつむための接遇のあり方やどのように職員育成するか等を部署長で共有し検討し合った。疾患により施設から外出され所在が確認できなくなる可能性の高い方について、チラシを作成し、地域理解を深められるよう務めた。

○反省

利用者の方々の様々な感情・行動に対し、否定的に捉え「おさえよう」「やめさせよう」とするのではなく、その感情にどうやったら寄り添えるかという視点をもった職員育成をしていきたい。また、介護未経験の職員も多いため、権利擁護、虐待防止についてしっかりと伝えていきたい。

看護部会

○結果

個々のスキル強化、新しい知識の習得においては zoom 研修の活用や看護協会が発信する医療的なニーズが高いケアへの実践、疾患をより深く知る等、幅広い研修内容から、個々の不得意分野に対し知識を深めるための取り組みが出来た。又、緊急時の対応においては各事業所に属する看護師が中心となり、様々な判断を行い、医療機関と連携した対応が行えており、介護の場におけるスタッフの安心、利用者様の安心につなげる事ができた。

○反省

事業所の看護師が対面で会議等を行うことが出来ず、生の声や有意義な意見交換の機会が少なかった。又、実際の事業所内での医療ニーズに沿った支援やケアにつながる、より具体的な勉強会の場など計画できればよりよかったと感じる。